



TITLE:

表紙、扉、目次など

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、扉、目次など. 京のイルカと学びのドラマ: 京大と学校現場で紡ぐ「アクティブ・ラーニング」をめぐる航海日誌. Journal of Navigation towards Active Learning: co-authored by teachers and pupils of Kyoto University and Schools of Japan 2016

ISSUE DATE:

2016-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/225031>

RIGHT:



京 の イルカと 学 び の ド ラ マ

京大と学校現場で紡ぐ

「アクティブ・ラーニング」

をめぐる航海日誌



監修 大野照文

編著 京都大学総合博物館

京都大学総合博物館



私たちの「アクティブ・ラーニング」

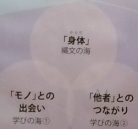
「アクティブ・ラーニング」の手法はこれまで学校外の「学び」において実践されてきたことは、グループワークやゼミナール等が活動的、協力的な学びや職人集団、そして、ミュージアムの鑑賞教育や教育普及活動などです。

それらの活動と「学校教育」の最大の違いは「社会」との近さだと思います。「学校」は「社会」とは違う環境で動いている独特な世界です。しかし、これらの学校外の「学び」は「社会」の延長線上に存在するものばかりです。

今回、アクティブ・ラーニングをデザインする際、この点に注意し、「アクティブ・ラーニング」を次のように定義することにしました。

アクティブ・ラーニングとは、社会の「リアリティ」を前提としながらデザインされた体験・体験を学習者が能動的に生きることから成る変化を促す学習活動。

ここでいう「社会的リアリティ」として、従来の学校教育が忘れ、取りこぼしてしまっている、「自分」「モノ」の出会い、「知識」とのつながり」という三つの要素を軸に捉えた学習プロジェクトを展開しました。



東京のムラと学校のムラ
学習指導要領
改訂案

「アクティブ・ラーニング」とは何か

「アクティブ・ラーニング」なる言葉が今、学校現場でホットな話題となっています。今回の学習指導要領改訂で小・中・高等学校等でこの手法が導入されることになったのです。この手法はもともと、大学教育発祥のもので、教師が自分の知識を一方的に話す「知識注入型一斉授業」一辺倒から脱却する試みの中で生まれてきたものです。

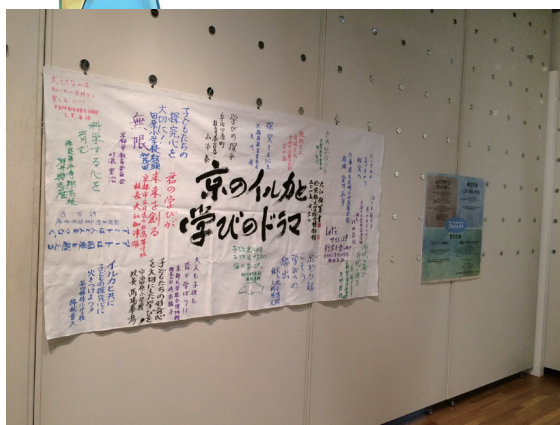
教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教員からのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

平成24年度文部科学省中央教育審議会答申 用語集より

この手法が小中学校の学校教育に導入される背景には、「ゆとり教育」から引き継がれる、「新しい学び」促進の教育改革が存在します。この「新しい学び」では、小中学校・大学において「主体性・能動性」、「協同性・社会性」、「問題解決能力・科学的思考」など、自律した「社会」人として必要な、「新しい学力」の獲得を目指します。

これらの学力は従来の教科書丸暗記の「詰め込み教育」では対応できそうにない。だから、「知識注入型一斉授業」一辺倒からの脱却で一役買う「アクティブ・ラーニング」が導入された、と考えられるのです。







京 の イルカと 学 び の ド ラ マ

京大と学校現場で紡ぐ

「アクティブ・ラーニング」

をめぐる航海日誌



監修 大野照文

編著 京都大学総合博物館

ご挨拶	2
趣旨	4

第一章 「京のイルカと学びのドラマ」について	10
------------------------	----

本書の概要	10	／	「アクティブ・ラーニング」とは？	11	／
私たちの「アクティブ・ラーニング」	13	／	プロジェクト概要	15	

第二章 「京のイルカ」と社会連携	17
------------------	----

1 「京のイルカ」発見、そして研究	17
京都大学大学院理学研究科	
2 化石から社会連携	24
京都大学総合博物館×宇治田原町立宇治田原小学校・田原小学校・京都市立第四錦林小学校	
3 化石をもとに展示を作る	29
京都市立銅駝美術工芸高等学校	

第三章 この「身体」で学ぶ——縄文の海①

京都大学初年次教育ゼミ「ポケゼミ ワークショップ」……………32

- 「頭でっかち」からの脱却 32 / 「困難」に直面するプロジェクト型学習 33 /
- 青白いキックオフ 34 / 学生たちを温めてアイデアを生み出す 35 /
- 「貝輪ができない！」 37 / プレイクスルーと回り始めるプロジェクトチーム 38 /
- 停滞と危機 39 / オンラインでの会議とリーダーの覚醒 41 /
- 腐臭を放つ巻き貝と長いプレゼン 42 / ワークショップは成功したか？ 43 /
- 困難と成長 44

第四章 この「身体」で学ぶ——縄文の海②

京都府立海洋高等学校「古代漁再現 探究活動」……………48

- 体験の意味 48 / 教授者と学習者の変容としての「学び」 49 /
- 海洋高校生、実験考古学に挑戦 51 / 生徒たちのわだかまりと実験の失敗 52 /
- 生徒たちの変化 53 / 伝説の考古学者を探せ 55 / 仙台での対面 57 /
- 伝説の考古学者と縄文人の身体 59 / 気づいた「意味」 62

第五章	人と「モノ」の出会い——学びの海……………	66
-----	-----------------------	----

1 「モノ」と人をつなげる取り組み

京都大学総合博物館における生涯学習活動の歩み……………	66
-----------------------------	----

「モノ」と人をつなげる 66

2 「モノ」から「体験」を作るために

京都市立紫野高等学校・秋田県立秋田中央高等学校との連携実践……………	77
------------------------------------	----

「モノ」と「体験」から「学び」をつくる 77

第六章	「他者」と「他者」をつなげる——学びの海……………	82
-----	---------------------------	----

1 人と人との「ハブ」としての大学博物館

小中高生の探究活動発表大会……………	82
--------------------	----

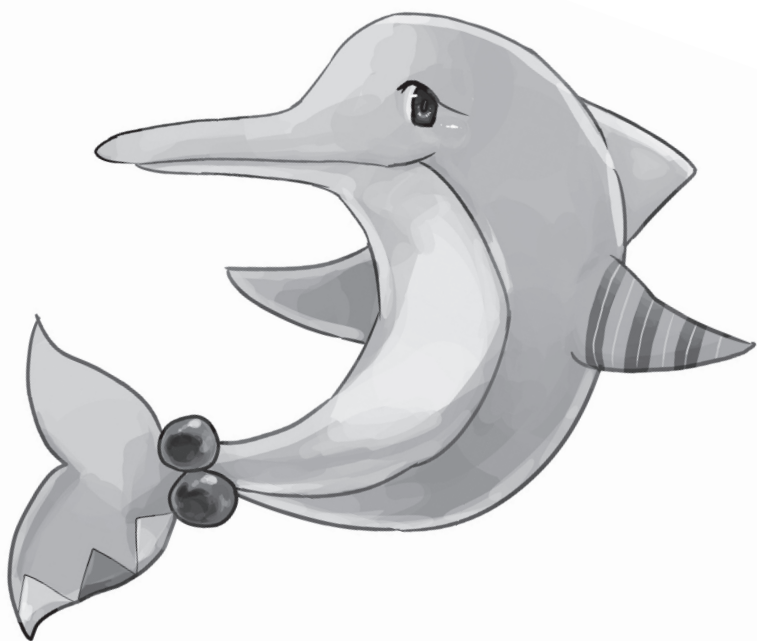
人と人をつなげる総合博物館 82

2 「出会い」を作る学び

京都市立日吉ヶ丘高等学校「総合的な学習の時間——キャリアゼミ」……………	89
--------------------------------------	----

3 「出会い」を作る学びを支える

京都大学総合博物館「教職実践演習」……………	94
------------------------	----



京のイルカと学びのドラマ

京大と学校現場で紡ぐ「アクティブ・ラーニング」をめぐる航海日誌

初版発行 2016年 3月 31日

監 修	大野照文
編 著	京都大学総合博物館

発行所	京都大学総合博物館
	〒 606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

編集・印刷協力	ヴィッセン出版
	〒 603-8002 京都府京都市北区上賀茂神山 297番地 2

Printed in Japan.

ISBN 978-4-9908340-3-6
C3037 ¥000000E

海の学びミュージアムサポート

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



THE KYOTO UNIVERSITY MUSEUM